

【2026 年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
コミュニケーション論		(リ) 選択 (人-25) 必修	1	1.2	前期 (前半)
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
瀧口 綾	B305	atakiguchi	水曜日 11:40~12:40		
授業の目的・概要	<p><目的>自己理解と他者理解の基礎的見識を土台として、具体的な人間関係について理解を深めることを目的とする。心理学における対人コミュニケーションの知識や技法を学び、自分自身のコミュニケーションスタイル及び社会人に求められる自己を適切に表現する力と実践的な対人力を身に付けることを目的とする。</p> <p><概要>対人コミュニケーションについて実践的な対人スキルの基礎を学ぶために、ワークシートやペアワーク、グループワーク等の演習を行う。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	良好な人間関係を築くためのヒントを一緒に探していこう。うまくいかなくても大丈夫、前向きに参加して欲しい。				
教科書	教科書は指定しない。必要に応じてプリントを配布する。				
参考書	心理学的コミュニケーション論への招待 コミュニケーション心理学/編著:深田博己/北大路書房 対人コミュニケーションの心理学/著:水國照充/北樹出版				
外部教材	特になし。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	一人一人を尊重し、多様な人間関係について理解し、説明できる。			HSU(1)、(2)、(3)	
②	コミュニケーションの基本的な概念や理論について理解し、説明できる。			HSU(1)、(2)、(5)	
③	自分自身のコミュニケーションスタイルについて理解し、説明できる。			HSU(1)、(2)	
④	円滑な対人コミュニケーションの知識や技法について理解し、技法を身につけることができる。			HSU(1)、(2)、(4)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション コミュニケーションの定義・基礎を学ぶ。	講義・演習	授業内容を復習する。		2
2	対人心理学とコミュニケーション(1) 自分をどう見せ伝えるか：自己呈示と自己開示について学ぶ。	講義・演習	授業後にリアクションペーパーを提出する。		2
3	対人心理学とコミュニケーション(2) 他人を説得するコミュニケーションについて学ぶ。	講義・演習	授業後にリアクションペーパーを提出する。		2
4	社会的コミュニケーション(1) 言語的コミュニケーションについて学ぶ。	講義・演習	授業後にリアクションペーパーを提出する。		2
5	社会的コミュニケーション(2) 自分も相手も大切に作る (アサーティブ) 表現について学ぶ。	講義・演習	授業後にリアクションペーパーを提出する。2		2
6	非言語的コミュニケーション(1) 視線、表情、声のトーンが与える影響について学ぶ。	講義・演習	授業後にリアクションペーパーを提出する。		2
7	非言語的コミュニケーション(2) パーソナルスペースが与える影響について学ぶ。	講義・演習	授業後にリアクションペーパーを提出する。		2
8	対人コミュニケーションの実際 自分のコミュニケーションスタイルについて知る。	講義・演習	授業後にリアクションペーパーを提出する。		4
試	レポート試験 達成度評価・評価のポイントを参照				

【2026 年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	60	0	0	40	
総合 力 指 標	知識・技術力	0	20	0	0	5	25
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	10	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	5	5
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	5	5
	コミュニケーション力	0	0	0	0	5	5
	取組みの姿勢・意欲	0	20	0	0	10	30
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	0	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	レポートのテーマは授業中に発表する。評価基準は、授業内容の理解、聞かれたことに答えていること、自分の体験や考えを自分の言葉で述べていること等で行う。				提出されたレポートは全体の総評を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	毎回授業の終わりにリアクションペーパーの提出を求める。理解したこと、疑問に感じたこと及び自分の考えなどについて記述してもらおう。授業内でのワークや意見交換への取り組みについて評価する。				次回の講義の初めに、前回のリアクションペーパーについてのコメントし解説する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教員の実務経験	教育相談室及び発達支援、クリニック等での現場経験があり、臨床心理士及び公認心理師として 25 年の臨床経験を有する。						
実践的授業の内容	専門性と現場経験を活かして、対人コミュニケーションに関する基本的知識を分かりやすく教授する。						
そ の 他	生成 AI (ChatGPT 等) を使用した課題作成は認めない。発見した場合は、評価を減じる。教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めない。						